別紙様式３

令和４年度　【　学園研究費助成金＜ B ＞　】研究成果報告書

学部名　看護学部

ﾌﾘｶﾞﾅ　ﾀｹｲ ﾙﾐ
氏　名　竹井留美

研究期間　令和４年度

研究課題名　看護臨地実習における経験が就職におよぼす影響

研究組織

	氏　　名	学　　部	職　　位
研究代表者	竹井留美	看護学部	講師
分担者	佐原弘子	看護学部	教授
協力者	濵島麻衣	看護学部	助手
協力者	徳元宏美	看護学部	助手

１．本研究開始の背景や目的等（200 字～300 字程度で記述）

看護臨地実習は、看護基礎的能力を養うという側面に加え、就職に対するレディネスを高める側面として重要であると考える。しかし、近年、新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの教育機関で代替実習などを行うことが余儀なくされ、臨地実習が制限されている現状にある。

そこで、本研究の目的は、看護臨地実習の制限を経験しなかった卒業生と、新型コロナウイルス感染症の影響により制限を経験した卒業生の臨地実習における就職に向けたレディネスに対する様々な思いを比較調査することで、従来検証されていなかった就職のレディネス状況における看護臨地実習の影響について明らかにすることである。

２．研究の推進方策（300 字程度で記述）

本研究は、看護臨地実習の制限を経験しなかった卒業生グループと、新型コロナウイルス感染症の影響により制限を経験した卒業生グループを研究対象とし研究を行った。研究対象者に研究協力をいただく際は、強制力がかからないよう倫理的な配慮をおこなった。それぞれの卒業生グループに 50 分～55 分のグループフォーカスインタビューを実施し、臨地実習における就職に向けたレディネスに対する思いについてデータを収集した。

インタビューデータは、対象者に許可を得て IC レコーダーに録音し、インタビュー終了後にデータを文字に起こし、臨地実習における就職に向けたレディネスに対する思いと考えられる内容を抽出し、研究者メンバーでデータを繰り返し分析・検討した。

３．研究成果の概要（600 字～800 字程度で記述）

本研究では、看護臨地実習の制限を経験しなかった卒業生(以下、制限なし卒業生)3 名と新型コロナウイルス感染症の影響により看護臨地実習制限を経験した卒業生(制限あり卒業生)5 名に、それぞれグループフォーカスインタビューを行った。

結果、看護臨地実習は就職のレディネスに何らかの影響を及ぼしていることが明らかとなった。制限なし卒業生と制限あり卒業生において、看護臨地実習が就職のレディネスに影響した共通の内容に、「就職を意識した実習機会」としての実習の存在が明らかとなった。就職を意識していた内容として、［病院の雰囲気］、［病棟の雰囲気］、［看護師・スタッフ同士の関わり］、［実習指導者の雰囲気］、［自分の看護師像となる看護師の存在］、［看護師の患者に対する関わり方］、［自分が成長できる指導内容］が認められた。更に、制限なし卒業生は、病院就職後の希望領域・部署を意識した［領域別の看護師の性格］、［診療科別の患者の特徴］［興味のある領域の看護師の仕事内容］が明らかとなった。また、看護臨地実習の就職のレディネスへの影響における制限あり卒業生特有の内容としては、実習制限により病院での実習ができず「就職に向けた病院選択への影響」、「実習制限による就職への不安」が認められ、「先輩からの病院情報の活用」して就職選択につなげていた。更に、実習制限を振り返り「就職に向けて実習で経験しておきたかったこと」が存在し、主科とは別の疾患に対応するための［様々な領域での実習経験］や［援助技術の実践の経験］が明らかとなった。

以上のことより、看護臨地実習は就職のレディネスに影響を及ぼしており、制限なし卒業生と制限あり卒業生において共通する影響とそれぞれ特有の影響が明らかとなった。

４．キーワード（本研究のキーワードを１項目以上８項目以内で記載）

①看護臨地実習	②就職レディネス	③実習制限	④新型コロナウイルス感染症
⑤	⑥	⑦	⑧

５．研究成果及び今後の展望（公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他○名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。）

今後の研究成果の公開予定は、学術集会で発表する。また、論文投稿による公開を予定している。